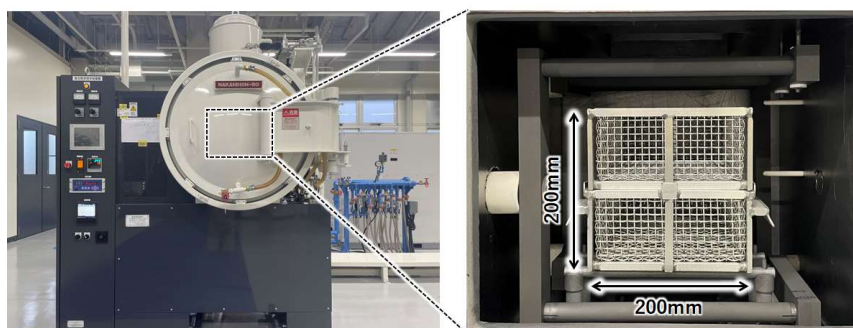


導入年度	R 5 年度	設 備 名	真空熱処理炉			
メーカ一	中日本炉工業(株)	型 式	NVF-30-P	設置室	材料試作開発室	

《 概 要 》

真空熱処理炉は、金属材料に対して表面の酸化や脱炭を生じない光輝熱処理が可能で、例えば鉄鋼材料等に対する機械的性質の改善に使用されます。具体的には、ダイス鋼、ハイス鋼等の工具鋼やマルテンサイト系ステンレス鋼の焼入れ、焼戻し処理をはじめ、オーステナイト系ステンレス鋼の固溶化処理、析出硬化系ステンレス鋼の析出硬化処理など様々な材質の熱処理が行えます。



熱処理炉の概観

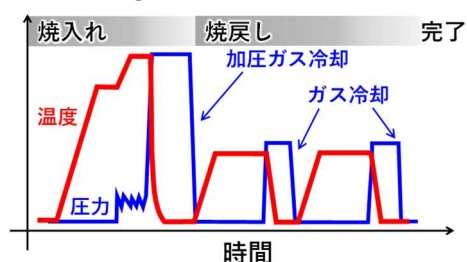
炉内の様子

《 仕 様 》

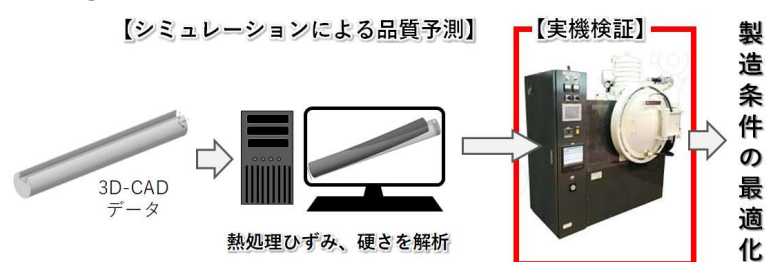
炉内寸法	幅 200 × 高さ 200 × 奥行 300mm
最大積載量	30kg
処理温度	常用 500℃～1200℃（最高 1300℃）
真空度	7×10^{-3} Pa 以下
冷却速度	最大 1150℃から 150℃まで 15 分以内
冷却ガス	窒素、アルゴン

《 用途例 》

① 鋼の真空焼入れ



② 熱処理シミュレーション結果の実機検証



- ・真空中で加熱
- ・加圧ガスで急速冷却

- ・シミュレーションで推測した熱処理ひずみや硬さなどを実機で検証しながら、処理条件の改善に活用